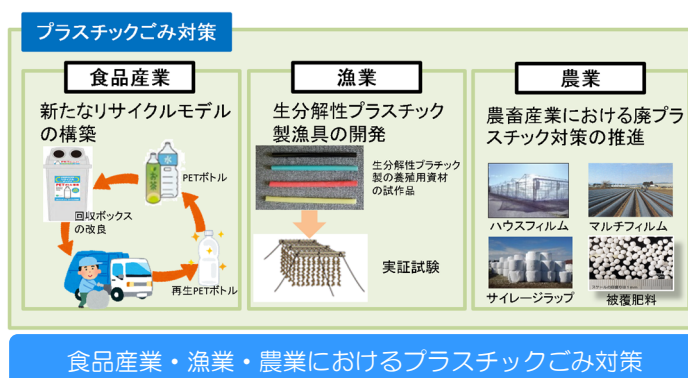


### ③ 農林水産省（食品産業・漁業・農業における取組）

農林水産省では、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」等に基づき、食品産業・漁業・農業の各分野における取組を強力に推進することとしています。具体的には、食品分野では、使用済みペットボトルの100%有効利用に向けた、消費者が利用しやすい業界横断的な回収体制の構築等、食品分野における容器包装プラスチックの更なる資源循環のほか、過剰なプラスチック製容器包装の使用の抑制を図るため、食品分野におけるプラスチック製買物袋の有料化義務化の円滑な導入等を進めています。



漁業分野では、漁具の海洋への流出を防止するため、使用済み漁具の適正処理及びリサイクル技術の開発・普及のほか、海洋に流出した漁具による環境への負荷を最小限に抑制するため、海洋生分解性プラスチック等の環境に配慮した素材を用いた漁具の開発を推進しています。また、環境省と連携し、環境省の「海岸漂着物等地域対策推進事業」を活用して、操業中の漁網に入網するなどして回収される海洋ごみの漁業者による持ち帰りを促進しています。

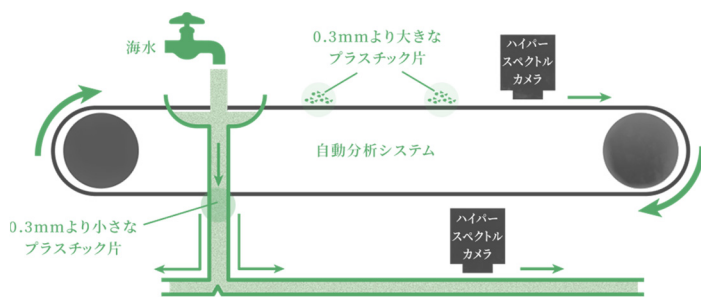
農業分野では、廃プラスチックの回収・適正処理の徹底や循環利用の促進、排出抑制のための中長期展張フィルムや生分解性マルチ<sup>8</sup>の利用拡大、被覆肥料の被膜殻の河川等への流出防止等の取組を推進しています。

### ④ 文部科学省・海洋研究開発機構 （海洋プラスチックごみの実態把握と科学的知見の充実）

海洋プラスチックごみ問題を解決するために、実態把握や科学的知見の充実が非常に重要です。文部科学省は国立研究開発法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）に委託し、ハイパースペクトルカメラ<sup>9</sup>を活用してマイクロプラスチックの材質・形状・サイズ・個数を迅速かつ自動で分析可能にする技術開発を行っています。

<sup>8</sup> 「マルチ」 畑の畝をビニールシートやポリエチレンフィルム、わらなどで覆うもの。

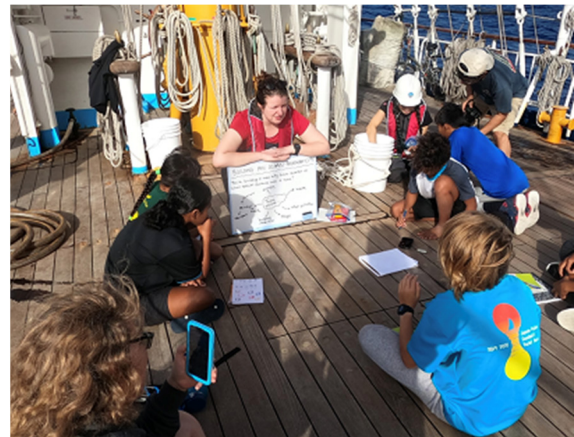
<sup>9</sup> 「ハイパースペクトルカメラ」 プラスチックの材料によって異なる「光の波長」を捉えることができるカメラ。



自動分析システムの構想図 提供：JAMSTEC

また、JAMSTEC では研究船「よこすか」や「しんかい 6500」等を用いて、海面に浮遊するマイクロプラスチックや深海に沈んだ海洋プラスチックの調査を行い、これまでの調査観測で得られた深海ごみの映像を「深海デブリデータベース<sup>10</sup>」で公開しています。

このほかにも、「日本ーパラオ親善ヨットレース」の参加艇等の協力のもと、海洋プラスチックのサンプル採取や、パラオの児童に向けた海洋や地球環境についての普及啓発活動や、沖縄県で小中学生向けの体験イベントを実施するなど、市民が海洋プラスチックごみ問題に触れる機会を創出し、理解の増進に努めています。



日本-パラオ親善ヨットレース中の普及啓発活動 提供：JAMSTEC

(参考リンク) JAMSTEC が挑む海洋プラスチック問題

<http://www.jamstec.go.jp/ocean-plastic/j/>

## ⑤ 国土交通省（清掃活動・啓発・実態把握等の取組）

国土交通省では、海洋プラスチックごみ対策アクションプラン等に基づき、「海と日本プロジェクト」と連携したプラスチックごみ等の回収を行う海浜清掃活動、河川における普及啓発活動・巡視・地域と連携した清掃活動等の実施、海洋気象観測船による北西太平洋及び日本近海の浮遊プラスチック類の目視観測、閉鎖性海域における海洋プラスチックごみを含めた浮遊ごみの回収等の取組を行い、実態の把握や指導・啓発活動に取り組んでいます。また、船舶に起因する海洋プラスチックごみ対策についても、国内における実態調査や周知啓発活動を進めるとともに、国際海事機関（IMO）における議論に積極的に参画しています。



海浜清掃活動

<sup>10</sup> 「深海デブリデータベース（JAMSTEC）」 <http://www.godac.jamstec.go.jp/catalog/dsdebris/j/>